

変化を続ける社会で 成長・発展していく企業であるために



2050年カーボンニュートラルの実現に向けた取り組み

要木

GHG排出量が多い鉄鋼業にとって、カーボンニュートラルの実現は大きな課題です。当社は、全社的な最重要テーマであることを十分に理解して取り組みを進めていると感じます。カーボンニュートラルの対応は関連する部門・分野が多岐に亘り実務への負荷も大変大きいものですが、この点当社では部門間で良く協力して丸となって対応出来ていると思います。また、各取締役が強い当事者意識を持って取り組んでおり、取締役会での議論や部門を超えた連携で強いリーダーシップを発揮していると感じます。

また、特殊鋼メーカーの中でも世界でいち早くカーボンニュートラルを実現しているOVAKOを子会社に有していることは当社の大きな強みです。カーボンニュートラル活動においては、こうした当社の強みを活かした攻めの取り組みと、世の中の流れについていく守りの取り組みを、どちらも両輪で進めていくことが重要です。引き続き経営陣がリーダーシップを発揮して進めていくことを期待します。

人的資本経営とDXへの取り組み

戸出

人材育成においては、OVAKOに代表される海外事業会社を複数抱えていることから、海外事業を推進し、将来的には事業経営まで担うことのできるグローバル人材を育てていく必要があります。また、DXは昨年度、DXプロジェクトチームを立ち上げてデジタル技術の活用を加速していますが、足元の業務効率化にとどまらず、社会の変化に合わせた事業モデル

の変革につなげていかなければいけません。

いずれも、取締役会をはじめとしたさまざまな場で議論がなされており、その都度明確な考えが示されていることから、経営陣も非常に高い問題意識を持っているのだと感じます。今後は、この努力をいかに具体的な成果につなげていくかに期待しています。

要木

人的資本経営においては、鉄鋼業全体で他の業種と比べると女性の管理職比率が低いという現状があり、当社として危機意識を持っています。当社は女性の管理職比率がゆっくりとしたペースではありますが地道に増加を続けており、業界の中では比較的高い水準にあることを私は評価しています。

人的資本経営の根幹となるのは、人材の価値を最大限に引き出すことです。数値ばかり気にして過大な目標を立ててしまえば、現場が混乱しますし、事業活動の大前提である安全安心が揺らいでしまう危険性もあります。その時々現場の状況や、従業員の気持ちを十分に尊重し、引き続き当社の状況に応じた対応をしていただきたいと思います。

取締役会の実効性

要木

実効性評価の結果をもとに改善が重ねられてきたことで、建設的な議論が加速し、今の世の中における企業活動の重要性に応じた議論ができています。評価項目の中でも「社外取締役が機能を果たしていると感じるか」という設問は、期待されている取締役会実効性の重要な要素の一つであり、我々自身が自らを振り返るきっかけにもなっています。また、社長による議論しやすい雰囲気づくりも評価できます。

取締役 監査等委員
(独立、社外)

要木 洋



取締役
(独立、社外)

戸出 巖



あえて課題を挙げるならば、人材の多様性をより高めていく必要があります。女性の参画や海外人材の登用など、さまざまな立場からのさまざまな意見を取り入れることが、議論をより活性化することにつながります。当社の実情を踏まえながらやるべきことをどのタイミングですべきか議論することも重要だと思います。

当社の利益相反や少数株主保護の取り組み

戸出

2019年3月に日本製鉄の子会社となり、親子上場の利益相反や少数株主保護への懸念をお持ちの方もいると思います。この点に関して経営陣は高い問題意識のもと、経営はもちろん通常の事業の進め方などにおいても利益相反が生じない、少数株主保護の観点を十分に踏まえて対応しています。取締役会では社外取締役が中心となり、各案件において利益相反や少数株主保護を絶えず意識して議論しています。

さらに、親子上場そのものの是非についてもさまざまな場で議論を尽くしていく必要があると感じています。世の中の変化とともにさまざまなステークホルダーの要請も変わっていきます。親子上場によるプラスの面とマイナスの面を継続的に議論して、マイナスを最小化し、プラスの価値の最大化を目指していかなければなりません。

PBR 1倍を意識した経営への要請が高まる中での当社の対応

要木

短期的な市場への対策と、長期的な市場価値向上への対応を両輪で進めていくことが重要です。短期的には配当方針の見直しや、IR活動、SR活動の充実を図っており、昨年はESG説明会も開催するなど、十分な取り組みができています。

今後さらに、長期的に企業価値を上げていくことを示し、市場から理解を得ていく必要があります。特に注目度の高いカーボンニュートラルの実現とDX推進については、2025年中期経営計画でも重点施策に掲げられ、進めている努力は外部からもうかがうことができます。この姿勢を維持するために、社外取締役としてしっかり見守っていきます。

今後の山陽特殊製鋼に期待すること

戸出

当社の企業文化と言える社員一人ひとりを大切にしている風土は、社外から見た大きな強みです。今後も社会貢献と人材育成に励み、姫路を地場とする企業として地域から愛される企業であり続けると同時に、活躍の場を海外にも広げ、グローバル社会に貢献できる企業になっていくことを期待しています。この2つを両立することが山陽特殊製鋼としての一つの理想の姿となり、創立から100年続く企業、株主をはじめとしたさまざまなステークホルダーにも評価される企業になっていくのだと思います。私自身も取締役会場の場を通じて発展に貢献したいと思っています。

要木

地域の人から誇りに思われる良さを保ちながら、グローバル企業としての更なる成長を目指して欲しいですね。当社の社員は真面目で堅実、協力的な人が多く、全員が協力し合っているからこそ、カーボンニュートラルをはじめとした取り組みがうまくいっているのだと感じます。世の中の変化が目まぐるしい中で、そうした山陽特殊製鋼らしさを失わずに成長を続けていただきたいと思います。創業100年への道のりは長いですが、不断の努力を続けることで10年後、その先も発展し続ける企業となっていくことを期待しています。

